

奄美群島振興開発アンケート調査 主な調査結果の概要

1. 奄美群島振興開発事業に対する満足度

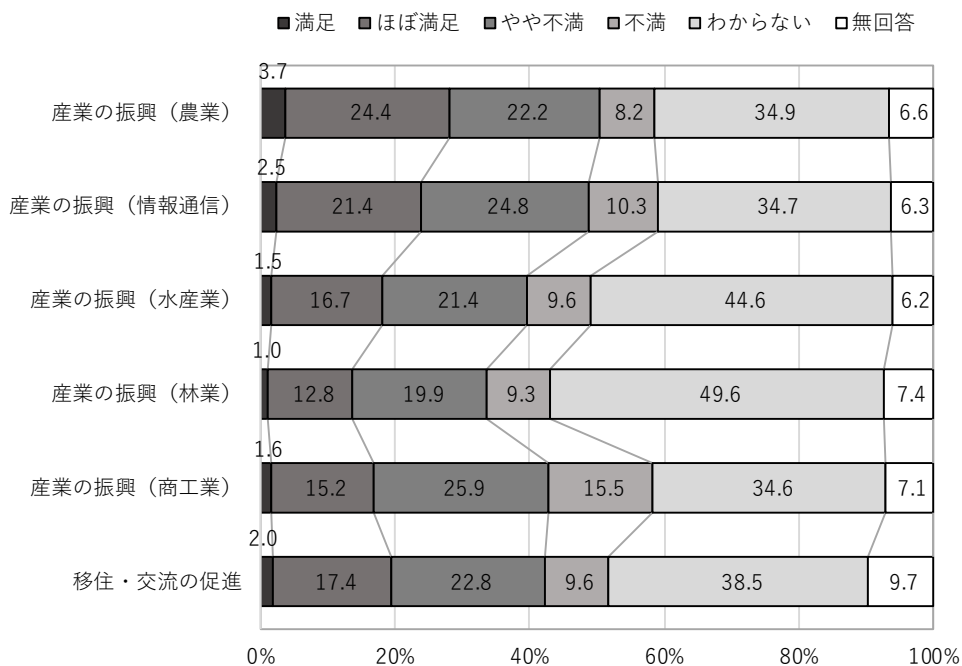
(1) 定住を促進するための方策に対する満足度

定住を促進するための方策については、どの方策についても「わからない」が最も多くなっている。

『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「産業の振興（農業）」が28.1%で最も多く、次いで「産業の振興（情報通信）」（23.9%）、「移住・交流の促進」（19.4%）などとなっている。

その一方で『不満』（「不満」と「やや不満」の合計）と回答した割合をみると、「産業の振興（商工業）」が41.4%で最も多く、次いで「産業の振興（情報通信）」（35.1%）、「移住・交流の促進」（32.4%）などとなっており、どの方策においても『満足』を上回っている。

【定住を促進するための方策に対する満足度（在住者 N=1,469）】



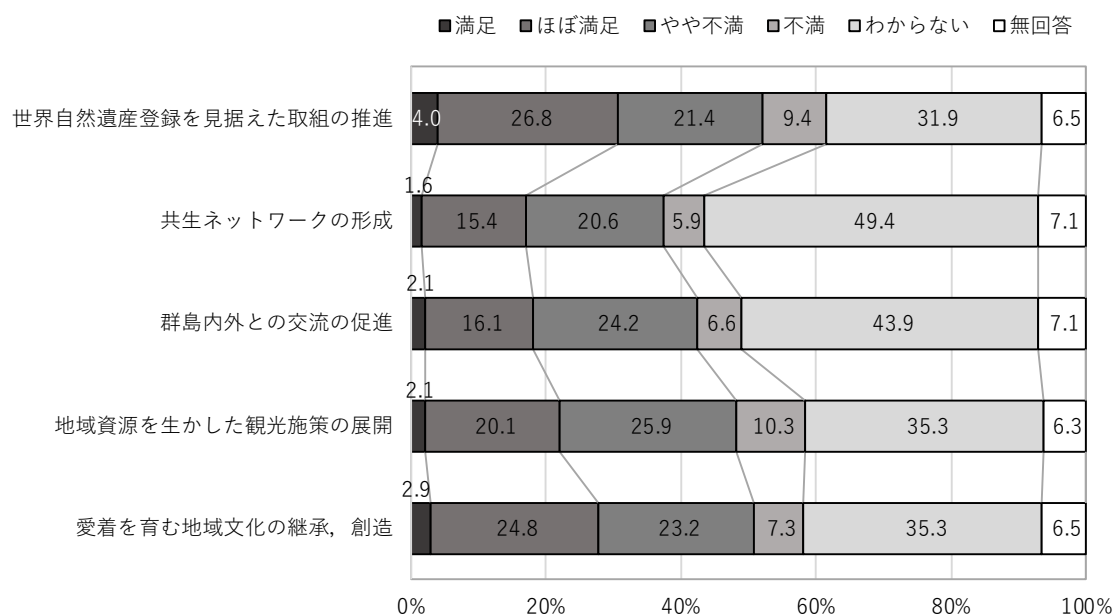
(2) 世界遺産登録などを生かした交流拡大のための方策及び滞在型・着地型観光を促進するための方策に対する満足度

世界遺産登録などを生かした交流拡大のための方策及び滞在型・着地型観光を促進するための方策については、どの方策についても「わからない」が最も多くなっている。

『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「世界自然遺産登録を見据えた取組の推進」が 30.8%で最も多く、次いで「愛着を育む地域文化の継承、創造」（27.7%）、「地域資源を生かした観光施策の展開」（22.2%）などとなっている。

その一方で『不満』（「不満」と「やや不満」の合計）と回答した割合をみると、「地域資源を生かした観光施策の展開」が 36.2%で最も多く、次いで「群島内外との交流の促進」（30.8%）、「世界自然遺産登録を見据えた取組の推進」（30.8%）などとなっており、「世界自然遺産登録を見据えた取組の推進」以外はどの方策においても『満足』を上回っている。

【世界遺産登録などを生かした交流拡大のための方策及び滞在型・着地型観光を促進するための方策に対する満足度（在住者 N=1,469）】



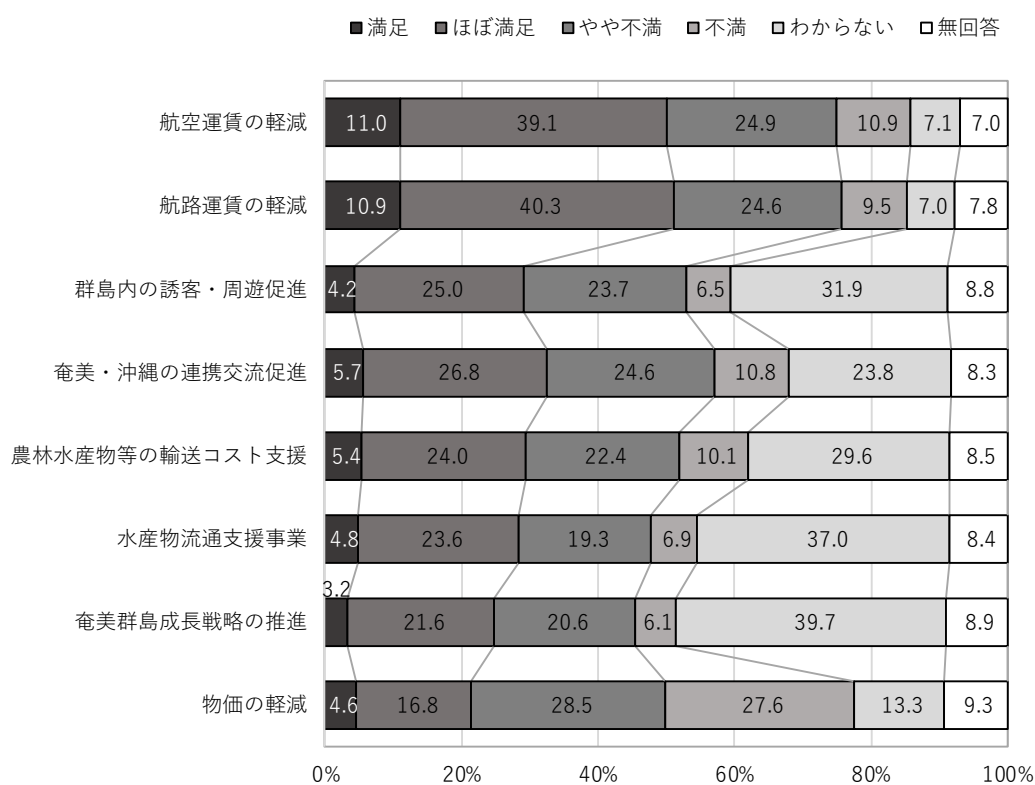
(3) 奄美群島が抱える条件不利性の改善（その1）に対する満足度

奄美群島が抱える条件不利性の改善（その1）について、『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「航路運賃の軽減」が51.2%で最も多く、次いで「航空運賃の軽減」（50.1%）、「奄美・沖縄の連携交流促進」（32.5%）などとなっている。

その一方で『不満』（「不満」と「やや不満」の合計）と回答した割合をみると、「物価の軽減」が56.1%で最も多く、次いで「航空運賃の軽減」（35.8%）、「奄美・沖縄の連携交流促進」（35.4%）などとなっている。

なお、「群島内の誘客・周遊促進」、「農林水産物等の輸送コスト支援」、「水産物流通支援事業」、「奄美群島成長戦略の推進」については、「わからない」が最も多くなっている。

【奄美群島が抱える条件不利性の改善（その1）に対する満足度（在住者 N=1,469）】



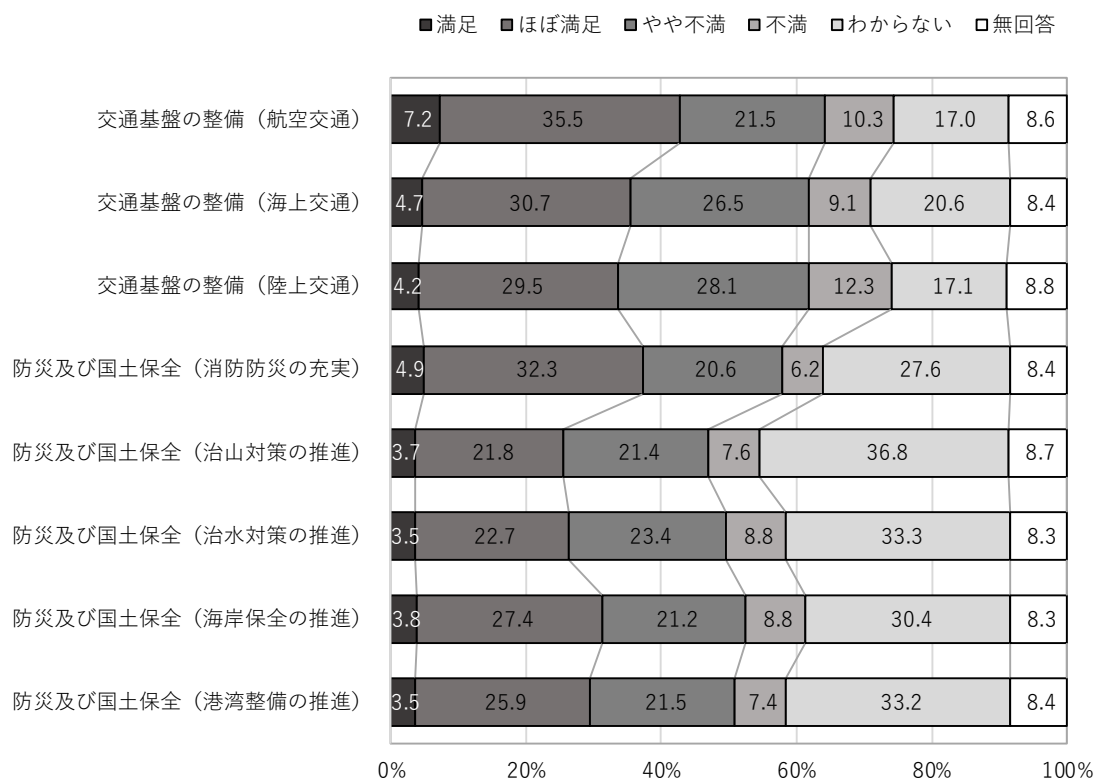
(4) 奄美群島が抱える条件不利性の改善（その2）に対する満足度

奄美群島が抱える条件不利性の改善（その2）について、『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「交通基盤の整備（航空交通）」が42.7%で最も多く、次いで「防災及び国土保全（消防防災の充実）」（37.2%）、「交通基盤の整備（海上交通）」（35.4%）などとなっている。

その一方で『不満』（「不満」と「やや不満」の合計）と回答した割合をみると、「交通基盤の整備（陸上交通）」が40.4%と最も多く、次いで「交通基盤の整備（海上交通）」（35.6%）、「防災及び国土保全（治水対策の推進）」（32.2%）などとなっている。

なお、「防災及び国土保全（治山対策の推進）」、「防災及び国土保全（治水対策の推進）」、「防災及び国土保全（海岸保全の推進）」、「防災及び国土保全（港湾整備の推進）」については、「わからない」が最も多くなっている。

【奄美群島が抱える条件不利性の改善（その2）に対する満足度（在住者 N=1,469）】



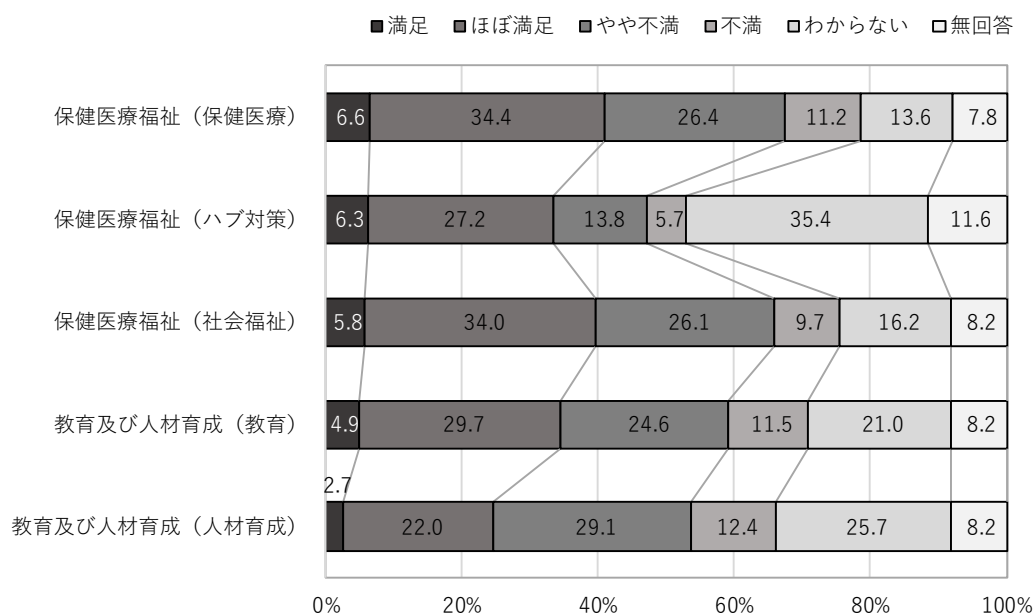
(5) 奄美群島の生活基盤の確保・充実（その1）に対する満足度

奄美群島の生活基盤の確保・充実（その1）について、『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「保健医療福祉（保健医療）」が41.0%で最も多く、次いで「保健医療福祉（社会福祉）」（39.8%）、「教育及び人材育成（教育）」（34.6%）などとなっている。

その一方で『不満』（「不満」と「やや不満」の合計）と回答した割合をみると、「教育及び人材育成（人材育成）」が41.5%で最も多く、次いで「保健医療福祉（保健医療）」（37.6%）、「教育及び人材育成（教育）」（36.1%）などとなっている。

なお、「保健医療福祉（ハブ対策）」については、「わからない」が最も多くなっている。

【奄美群島の生活基盤の確保・充実（その1）に対する満足度（在住者 N=1,469）】



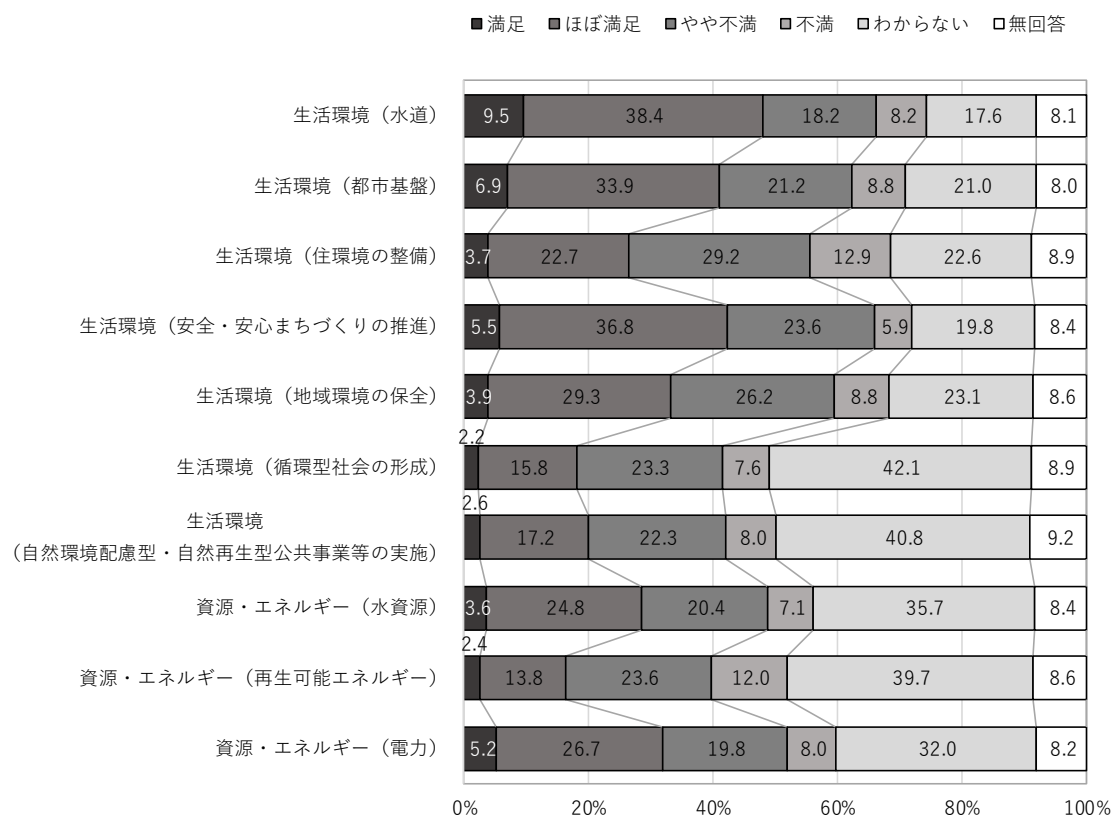
(6) 奄美群島の生活基盤の確保・充実（その2）に対する満足度

奄美群島の生活基盤の確保・充実（その2）について、『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「生活環境（水道）」が47.9%で最も多く、次いで「生活環境（安全・安心まちづくりの推進）」（42.3%）、「生活環境（都市基盤）」（40.8%）などとなっている。

その一方で『不満』（「不満」と「やや不満」の合計）と回答した割合をみると、「生活環境（住環境の整備）」が42.1%で最も多く、次いで「資源・エネルギー（再生可能エネルギー）」（35.6%）、「生活環境（地域環境の保全）」（35.0%）などとなっている。

なお、「生活環境（循環型社会の形成）」、「生活環境（自然環境配慮型・自然再生型公共事業等の実施）」、「資源・エネルギー（水資源）」、「資源・エネルギー（再生可能エネルギー）」、「資源・エネルギー（電力）」については、「わからない」が最も多くなっている。

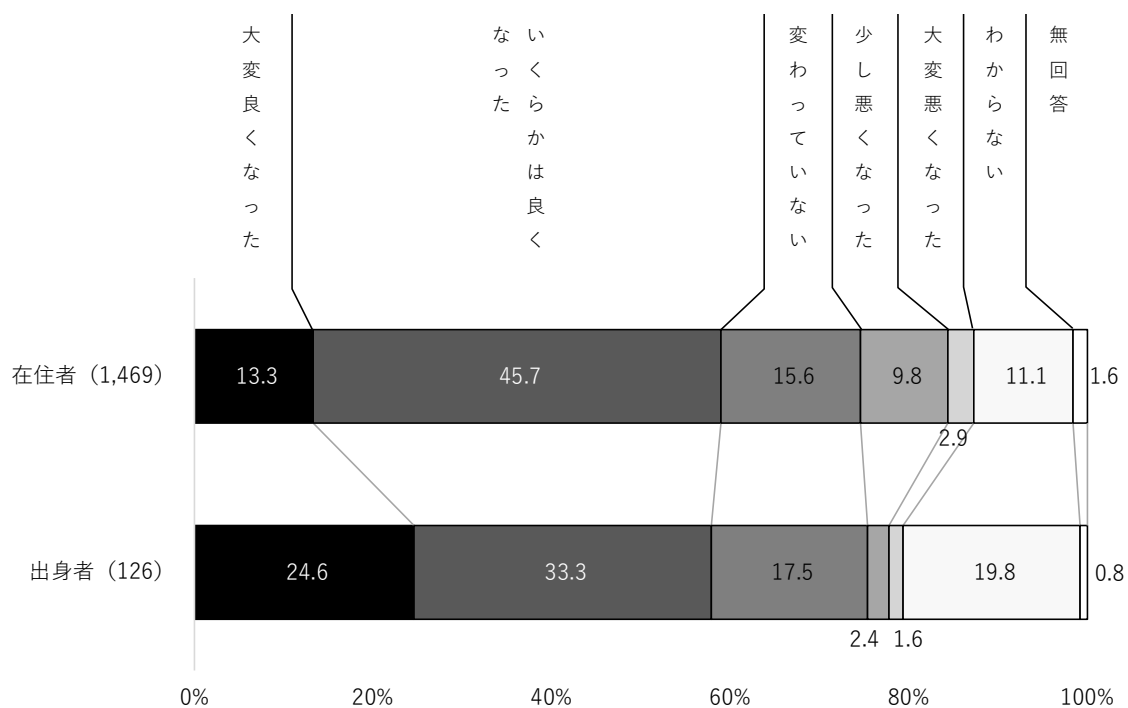
【奄美群島の生活基盤の確保・充実（その2）に対する満足度（在住者 N=1,469）】



2. 島のイメージ

10年前と比較した島の全体的なイメージについては、在住者、出身者ともに『良くなった』（「大変良くなった」と「いくらかは良くなった」の合計）が約6割を占めており、『悪くなった』（「少し悪くなった」と「大変悪くなった」の合計）を大きく上回っている。

【10年前と比較した島の全体的なイメージ（在住者、出身者）】

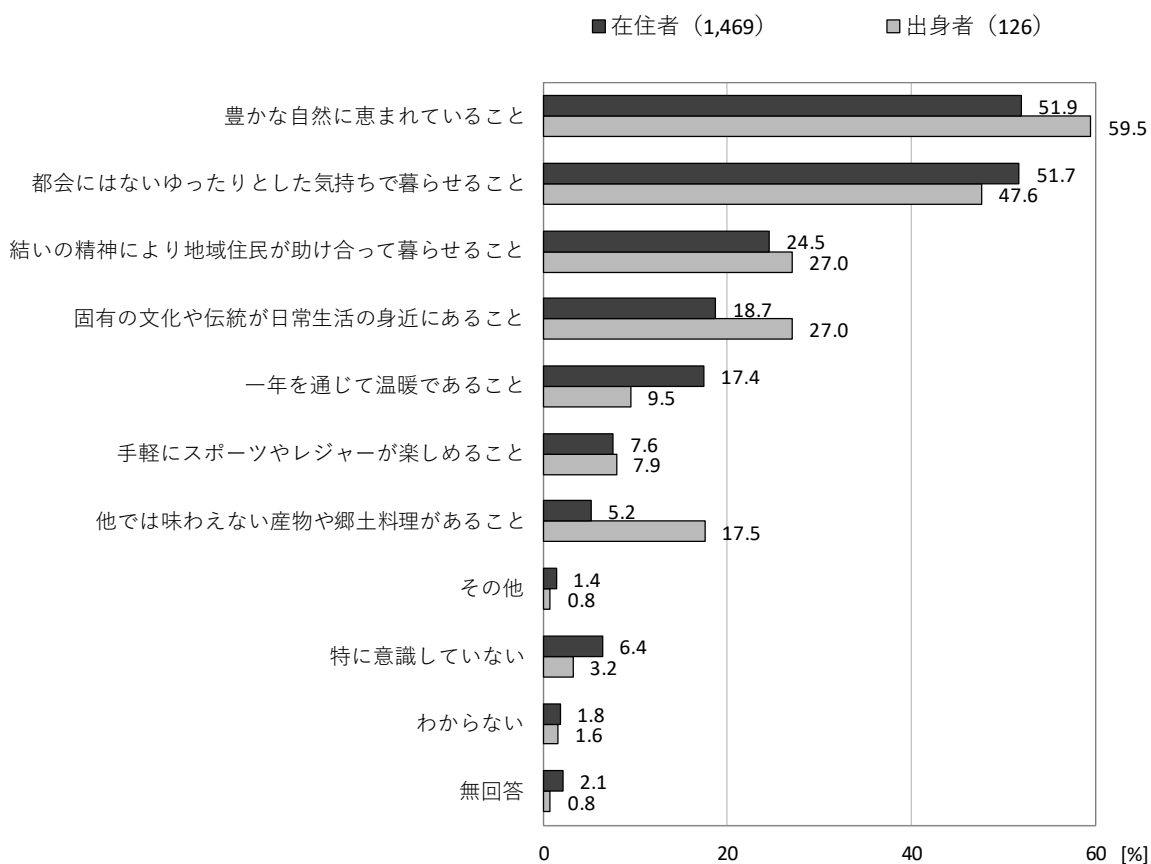


3. 島の魅力

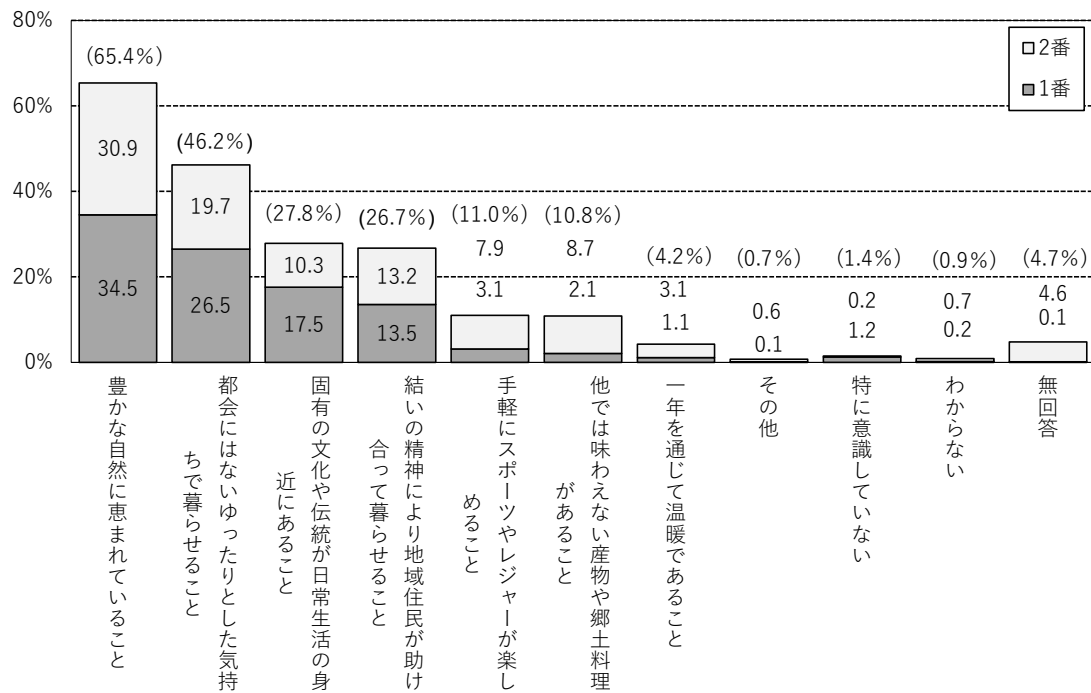
島の魅力については、在住者、出身者、高校生等ともに「豊かな自然に恵まれていること」が最も多く、次いで「都会にはないゆったりとした気持ちで暮らせること」などとなっている。

【島の魅力（在住者、出身者、高校生等）】

●在住者と出身者



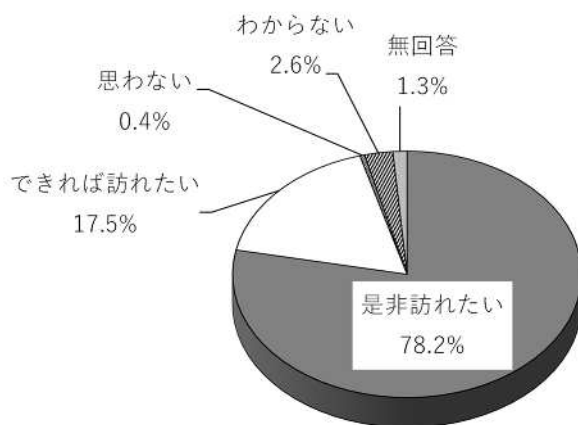
●高校生等 (N=808)



4. 今後の来訪意向

来訪者の今後の奄美群島への来訪意向については、『訪れたい』（「是非訪れたい」と「できれば訪れたい」の合計）が 95.7%と 9 割以上を占めており、「思わない」（0.4%）を大きく上回っている。

【今後の来訪意向（来訪者 N=229）】



5. 今後の定住・帰島意向

在住者の今後の定住継続意向については、『島内に住み続けたい』（「是非島内に住み続けたい」と「できれば島内に住み続けたい」の合計）が79.6%で約8割を占めている。

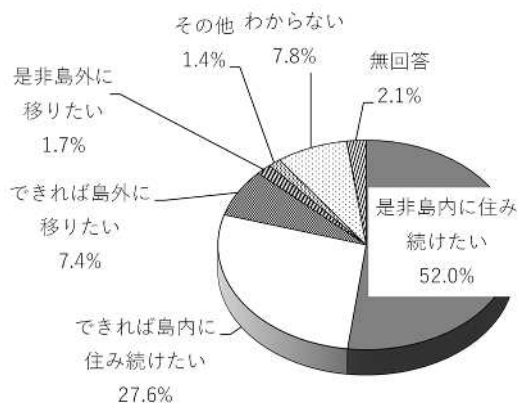
出身者の奄美群島での居留意向については、『奄美群島内で暮らしたい』（「是非暮らしたい」と「できれば暮らしたい」の合計）が63.5%となっている。

高校生等の将来の帰島意向については、「できれば暮らしたい」が40.3%で最も多く、「是非暮らしたい」（17.0%）も含めると『暮らしたい』が半数を超えている

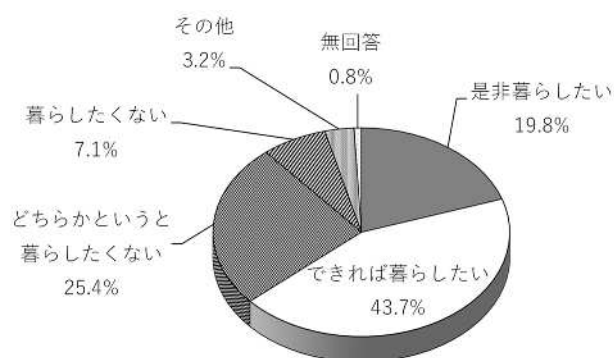
来訪者の奄美群島での居留意向については、「暮らすのではなく別荘などを持ちたい（二地域居住をしたい）」が27.5%で最も多く、次いで「体験的に暮らしてみたい」（25.3%）、「定住しても良い」（14.4%）などとなっている

【今後の定住・帰島意向（在住者、出身者、高校生等、来訪者）】

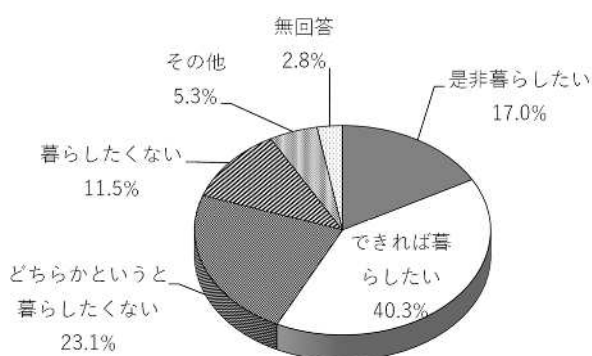
●在住者（N=1,469）



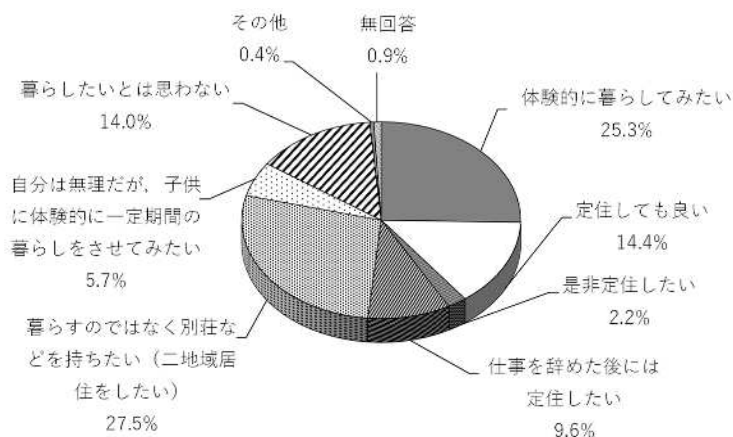
●出身者（N=126）



●高校生等（N=719）



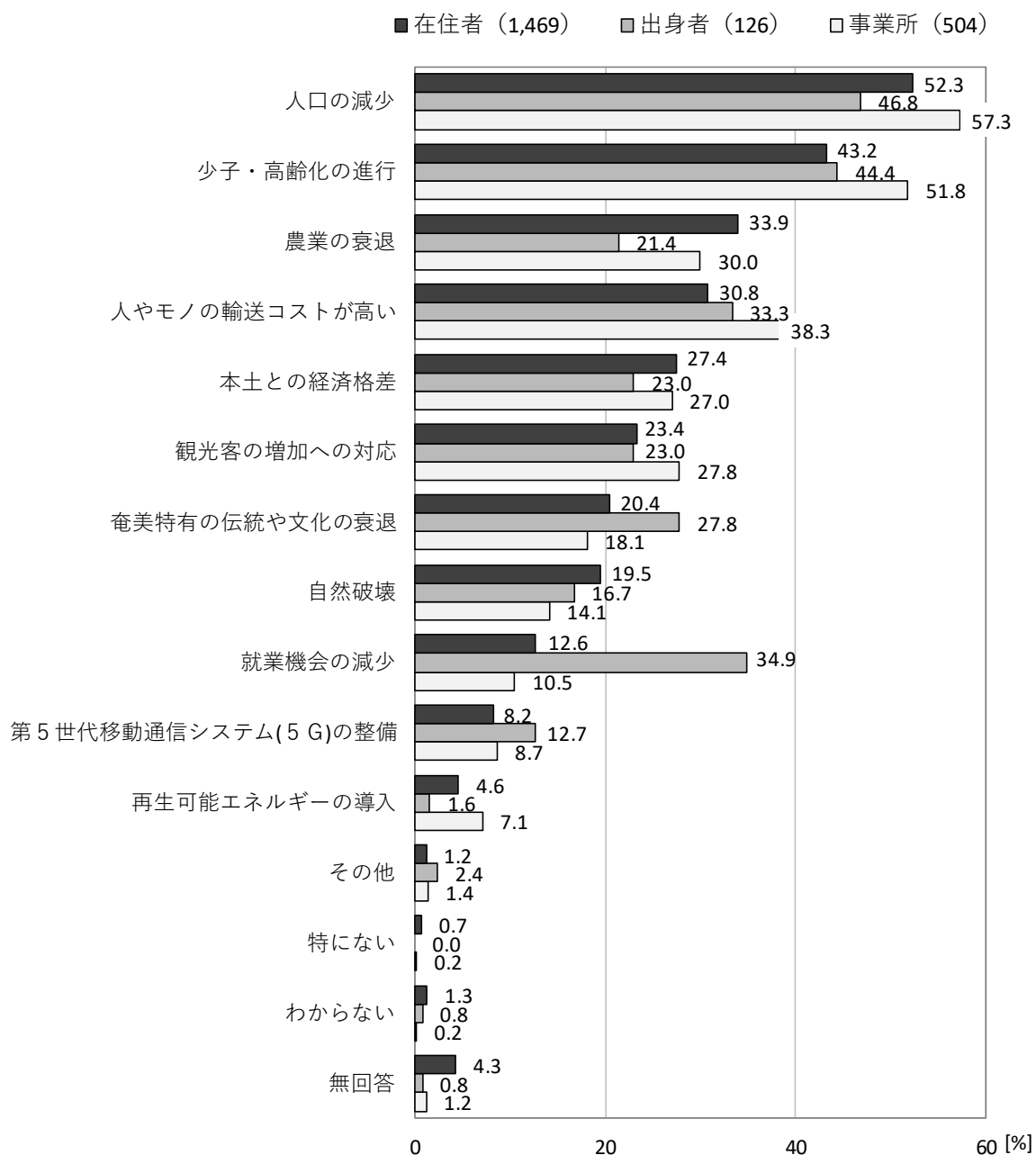
●来訪者（N=229）



6. 奄美群島の今後の課題

奄美群島の今後の課題については、在住者、出身者、事業所ともに「人口の減少」が最も多く、次いで「少子・高齢化の進行」などとなっている。

【奄美群島の今後の課題（在住者、出身者、事業所）】

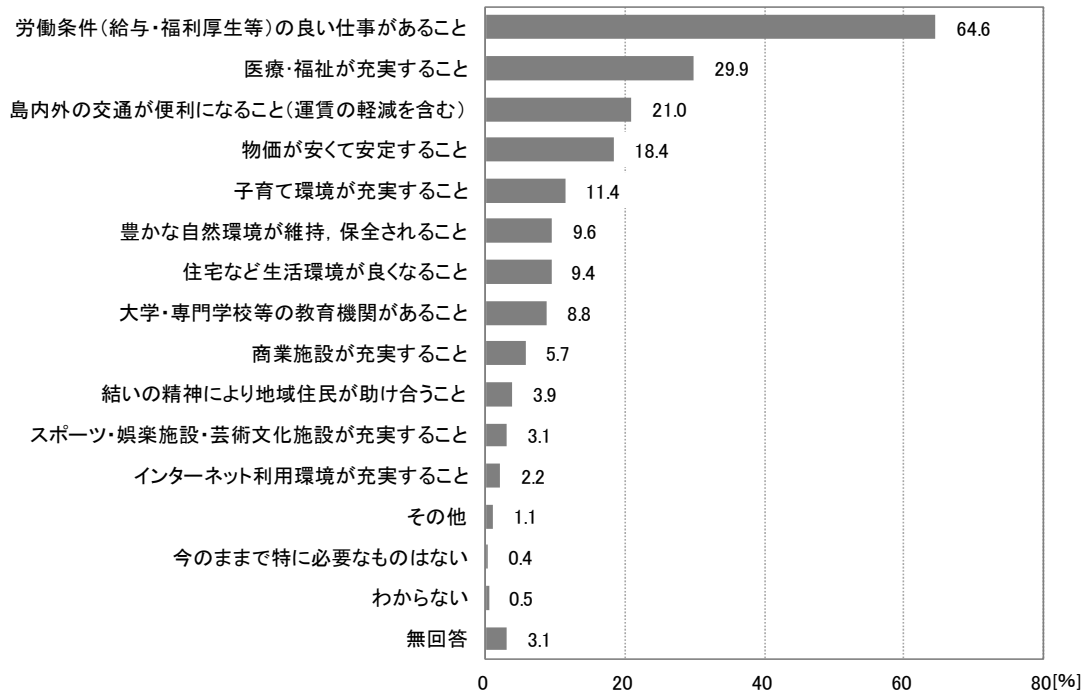


7. 島で暮らしていくために必要なこと

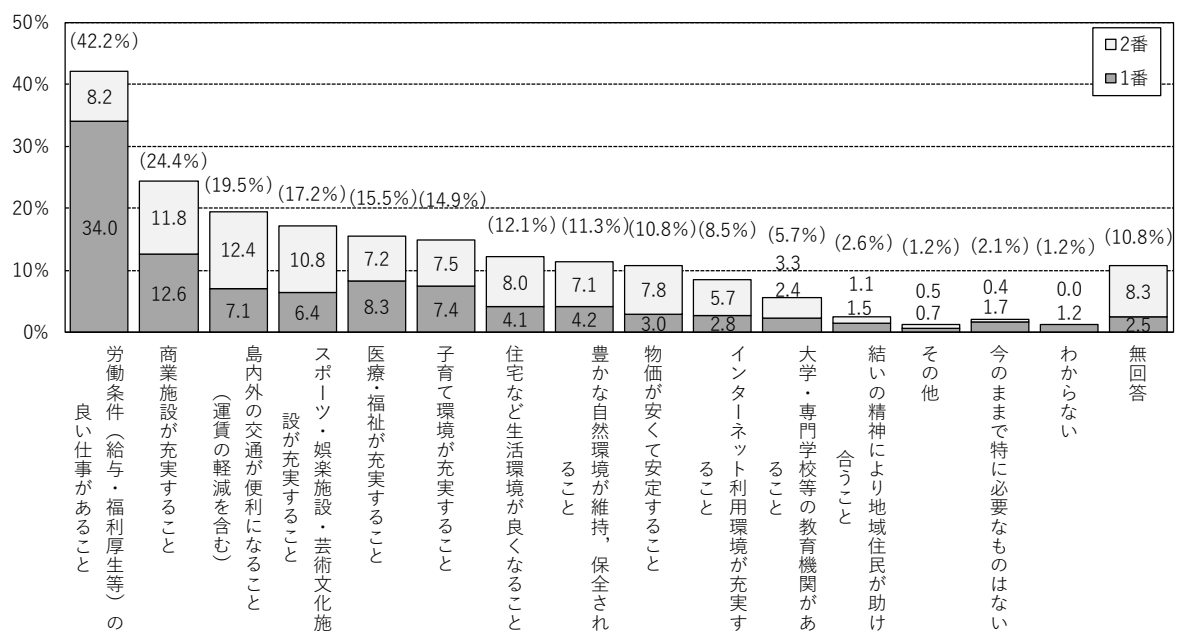
島で暮らしていくために必要なことについては、在住者と高校生等ともに「労働条件（給与・福利厚生等）の良い仕事があること」が最多となっており、次いで在住者は「医療・福祉が充実すること」、高校生等は「商業施設が充実すること」などとなっている。

【島で暮らしていくために必要なこと（在住者、高校生等）】

●在住者（N=1,469）



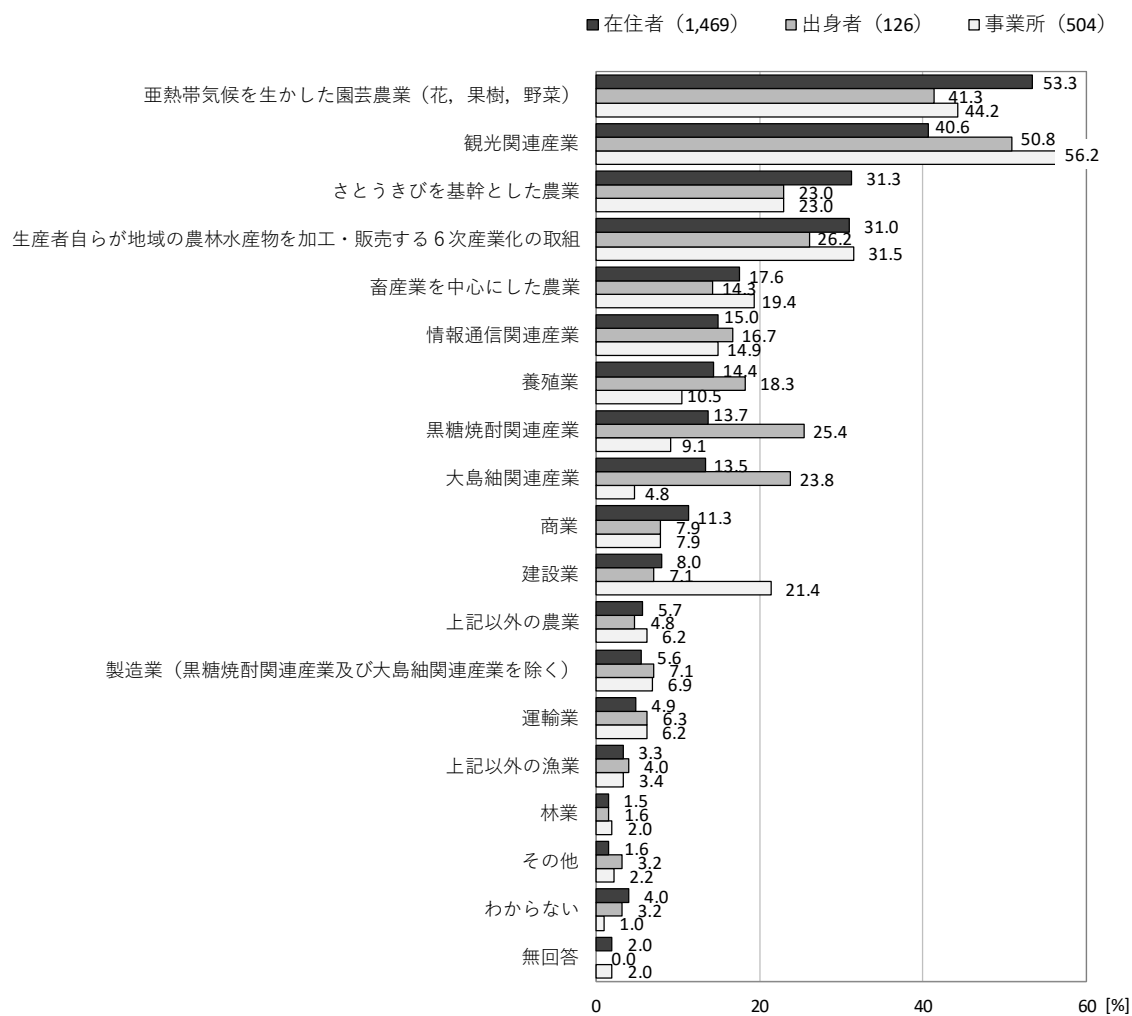
●高校生等（N=808）



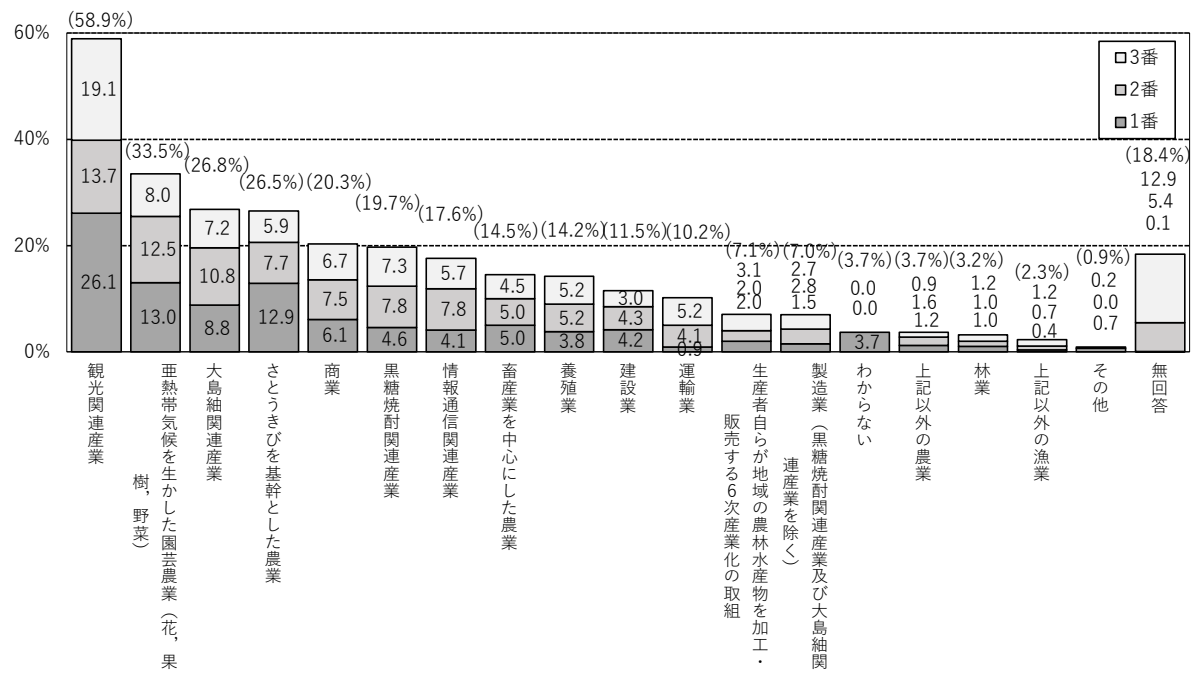
8. 今後力を入れたら良い産業

今後の島の発展・振興のために力を入れたら良い産業について、在住者では「亜熱帯気候を生かした園芸農業（花，果樹，野菜）」、出身者、高校生等、事業所では「観光関連産業」がそれぞれ半数以上を占め最も多くなっている。

【今後力を入れたら良い産業（在住者、出身者、高校生等、事業所）】



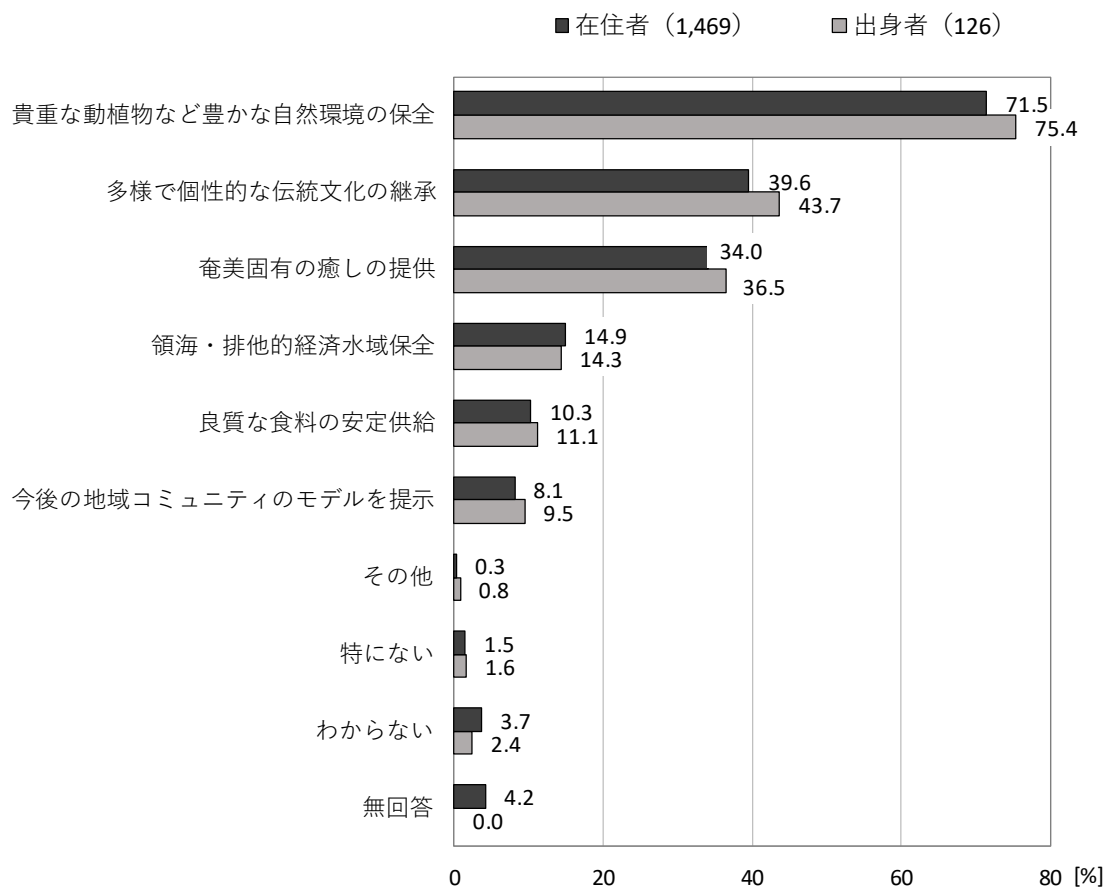
●高校生等 (N = 808)



9. 群島が果たしている役割、今後果たすべき役割

日本において奄美群島が果たしている役割、今後果たすべき役割については、在住者、出身者ともに「貴重な動植物など豊かな自然環境の保全」が最も多く、次いで「多様で個性的な伝統文化の継承」、「奄美固有の癒しの提供」などとなっている

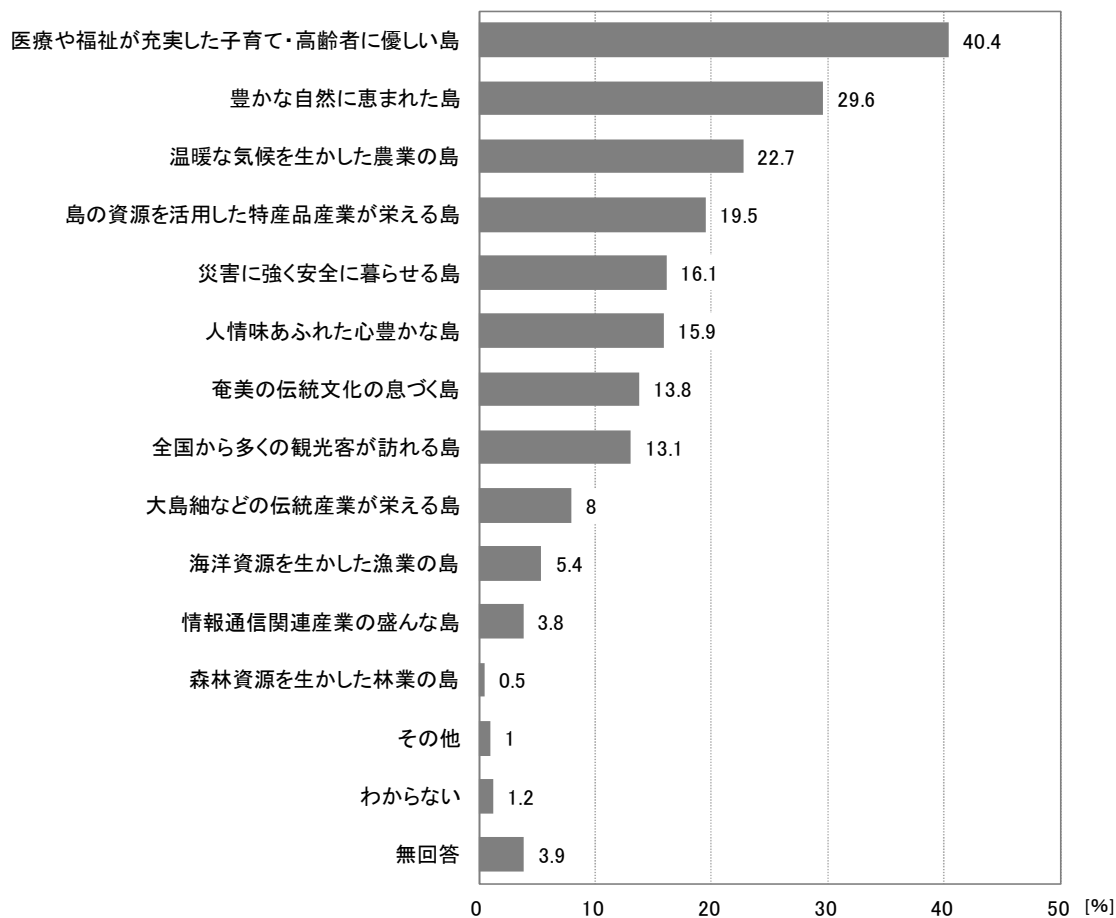
【群島が果たしている役割、今後果たすべき役割（在住者、出身者）】



10. 将来なって欲しい島の姿

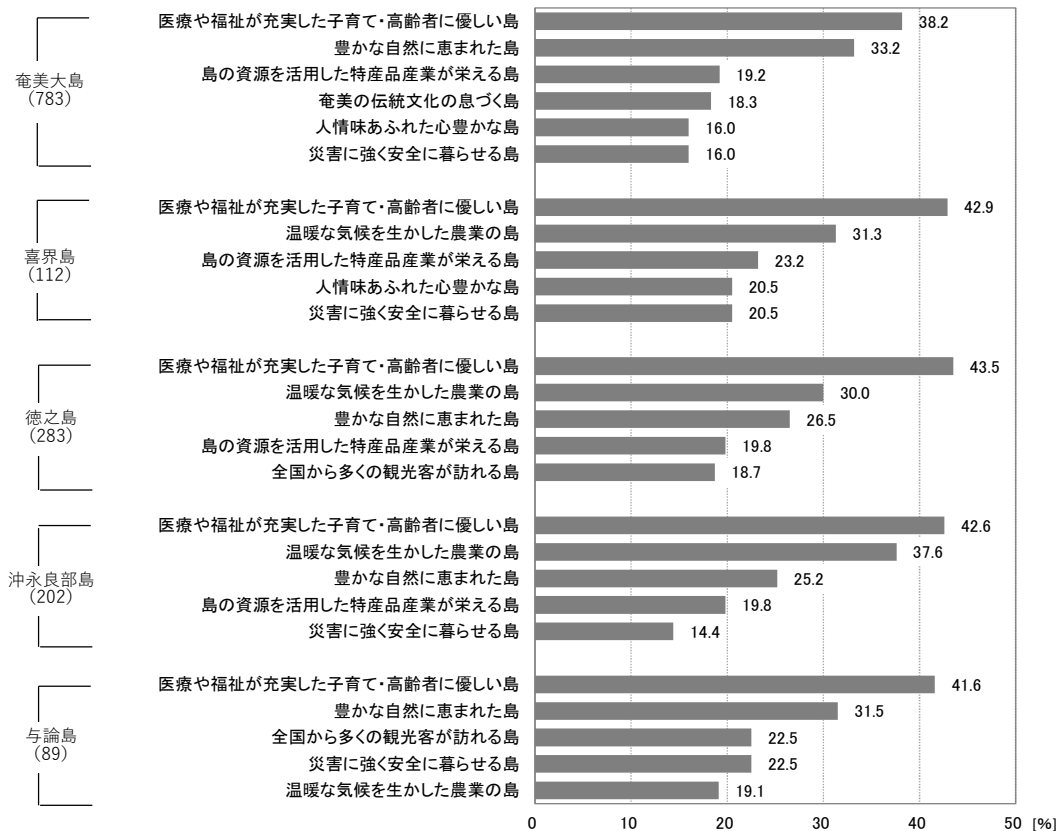
奄美群島の将来なって欲しい島の姿については、「医療や福祉が充実した子育て・高齢者に優しい島」が40.4%で最も多く、次いで「豊かな自然に恵まれた島」(29.6%)、「温暖な気候を生かした農業の島」(22.7%)、「島の資源を活用した特産品産業が栄える島」(19.5%) などとなっている。

【将来なって欲しい島の姿（在住者 N=1,469）】



また、島別に将来なって欲しい島の姿についてみると、どの島においても「医療や福祉が充実した子育て・高齢者に優しい島」が最多となっており、次いで奄美大島と与論島では「豊かな自然に恵まれた島」、喜界島、徳之島、沖永良部島では「温暖な気候を生かした農業の島」などとなっている。

【島別にみた将来なって欲しい島の姿（在住者）】



11. 奄美群島振興開発特別措置の必要性

奄美群島振興開発特別措置法については、『国の特別措置が必要である』（「奄美群島の自立的発展のためには、地域の努力に加えて、まだ国の特別措置が必要である」、「他の地域に比べ多くの面で格差があり、今後とも国の特別措置が必要である」、「歴史的にも特別の経緯を持つ地域であり、今後とも国の特別措置が必要である」の合計）が在住者と出身者では8割を超え、高校生等でも約7割を占めている。

【奄美群島振興開発特別措置の必要性（在住者、出身者、高校生等）】

